

太地いさな組合

○現在実施している又は今後実施予定の取組

太地町では 1600 年代から組織的な捕鯨が始まり、今日まで約 400 年にわたり鯨やイルカを対象とした捕鯨が行われています。

四方を海に囲まれた我が国では古来より鯨やイルカが利用されてきましたが、急峻な崖が海岸まで迫り、田畑の少ない太地においては、特に貴重なたんぱく源として利用されており、地域の食文化になくてはならないものとなっております。そのため、鯨供養祭をはじめ、鯨やイルカに関する伝統的な文化行事が年中行われています。捕鯨は、地域経済に欠かせない産業として人々の暮らしを支えています。

当組合は、和歌山県太地町の太地町漁業協同組合に所属する漁業共同体で、小型鯨類の追い込み漁を行い、地域の食文化の維持に貢献しているところです。また、教育研究機関としての機能を有する水族館等にイルカ等の小型鯨類の生体を提供することで、海洋環境及び生態系の保全にかかる社会教育・研究等にも貢献しているところです。

これからも、太地町の文化・産業を、日本の鯨食文化を守り伝えるため、また、水族館等への小型鯨類の提供による社会教育・研究に貢献するため、管理目標に基づくクジラ資源の保存及び管理を行ってまいります。

「さかなの日」では、公共施設における「さかなの日」ポスター展示を予定しています。